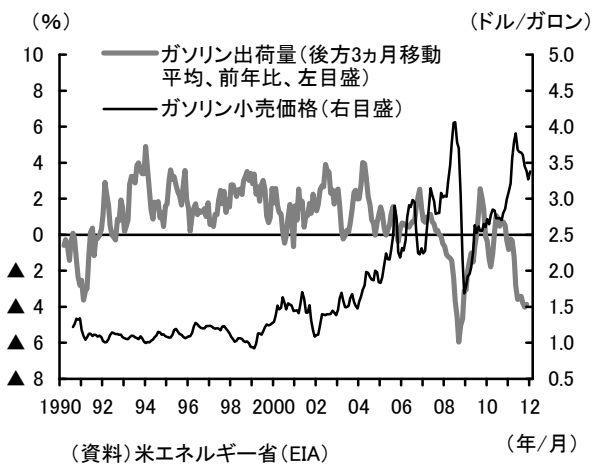


米国ガソリン需要の低迷長期化

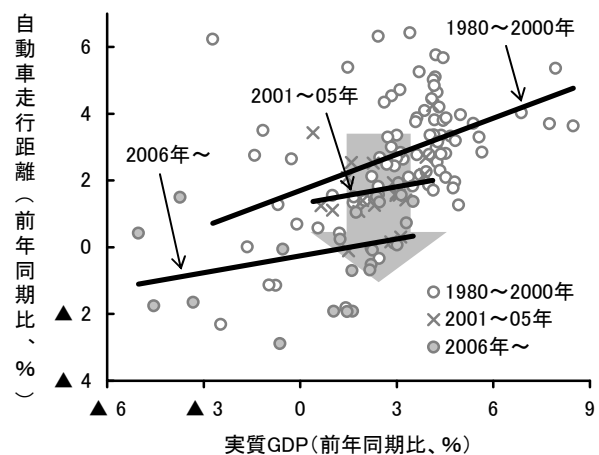
～ 自動車の利用抑制と燃費向上が、構造的な下押し要因に ～

- (1) 米国では、2011年入り後、ガソリン出荷が大幅に減少（図表1）。足許のガソリン需要の低迷は、ガソリン価格の高止まりが主因ながら、自動車市場の構造変化も一因。
- (2) 第1に、自動車の利用抑制。米国の実質GDPと自動車走行距離の関係をみると、近年、経済成長に応じた自動車走行距離の伸びの下方シフトが鮮明に（図表2）。背景には、ガソリン価格高騰に伴う自動車の利用抑制の定着や、自動車購入意欲の趨勢的な低下（図表3）。先行きも、ガソリン価格の大幅な下落は見込み難いほか、消費者の自動車離れの広がりなどから、自動車走行距離は低迷が続く見込み。
- (3) 第2に、自動車の燃費向上。米国内で販売された自動車の燃費は、1980年代半ばから90年代後半にかけて横ばいで推移したものの、2005年前後から改善傾向が明確化（図表4）。12年以降も燃費基準の大幅な引き上げが予定されており、燃費の向上が加速する公算。
- (4) こうした構造的な下押し圧力を受け、米国のガソリン需要は低迷が長期化する見通し。ちなみに、米国では石油製品消費の5割弱をガソリンが占めており、米原油需要の抑制要因に。

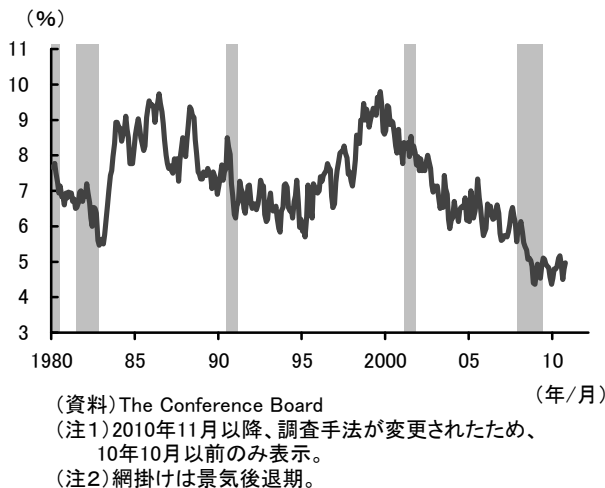
（図表1）ガソリン出荷量と小売価格



（図表2）実質GDPと自動車走行距離



（図表3）今後6ヵ月以内に自動車購入を考えている人の割合（後方3ヵ月移動平均）



（図表4）自動車燃費

